

都市再生整備計画の目標及び計画期間

| | | | | | | | |
|-------|---------------------|------|---------------------|-----|----------|----|--------|
| 都道府県名 | 愛知県 | 市町村名 | はんだし 半田市 | 地区名 | 蔵のまち周辺地区 | 面積 | 133 ha |
| 計画期間 | 平成 17 年度 ~ 平成 21 年度 | 交付期間 | 平成 17 年度 ~ 平成 21 年度 | | | | |

目標
 出会い と にぎわい あふれるまちづくり
 歴史・文化・自然等豊かな地域資源を活かし魅力ある観光まちづくりを推進することにより、住民の生活の質の向上と地域経済の活性化を図る。

目録 平成21年3月

まちづくりの経緯及び現況
 ・2005年2月知多半島常滑沖に中部国際空港が開港することにより新たに生じる人の流れと、愛知万博の開催によりさらに加速される人の流れを最大限に活かし、空港と豊富な観光資源を持つ知多半島五市五町が一体となって知多の魅力情報を発信し、トランジット客を含む観光客の誘致を行い、地域経済の活性化を図るため地域再生計画 中部国際空港を核とする知多半島観光再生計画 を策定し、平成16年6月に国の認定を受けた。この計画では、さまざまな観光資源を有効に活かした交流の渦を巻き起こして、知多半島地域の経済の活性化と雇用の創出を図ることを目的としているものである。
 半田市には、31台の山車が春に市内各地区に別れて曳きまわされる半田の春まつり、その山車が5年毎に一堂に会し豪華絢爛に曳き回され40万人以上の観光客が訪れる「はんだ山車祭り」、童話作家で代表作「ごんぎつね」で小学校の教科書でも紹介されている新美南吉記念館、知多半島に点在している知多四国めぐりの寺院、市立の科学館、博物館、私設のかみや美術館を始め多くの観光資源を有している。
 ・本地区のうち知多半田駅前においては、平成11年度に中心市街地整備改善活性化基本計画を策定し、その内早急に活性化が必要な地区として土地画整理事業及び、市街地再開発事業を同時施行している。また、ふるさとの顔づくりモデル土地画整理事業の地区指定及び、平成13年度には旧まちづくり総合支援事業の採択を受け、継続的に半田市の玄関口にふさわしい街なみの形成を図っている。
 ・地区内には、下述のとおり観光資源を有するが、施設周辺ならびに中心市街地において観光客が回遊する状況ではない。
 【赤レンガ建造物】
 明治時代に半田で創業され、当時はエビス、キリン、アサヒ、サッポロと並ぶ5大ビールメーカーのひとつであった旧カプトビールの工場であり、現存する工場が極めて少ないため、初期ビール工場の姿を伝える遺構として貴重な施設である。現存するレンガ建造物の中では東京駅、横浜赤レンガ倉庫、北海道庁に次ぐ規模を有する。
 【紺屋海道】
 古くからのまちなみの残る街道で、平成14年度より名鉄・JRのウォーキングコースになり平成15年にはウォーキングツアーの1番人気コースになるなど訪れる人の数が増加している。新規店舗の開店や、メディアへの露出もあり知名度はアップしている。
 【蔵のまち】
 環境省の「かおり風景100選」に愛知県下で唯一認定されている景観のすぐれた場所であり、醸造業をはじめとした地場産業が展開し、蔵や伝統的なまちなみが残されている。酢の里、酒の文化館といった観光施設もあるが、点在し他施設との連携が乏しいため観光パスのトイレ休憩等に利用されることが多く滞在時間が短い(酢の里、酒の文化館の同時利用は全体の20%程度)。平成14年開催時には全国から47万人の観光客を迎え入れた、5年毎に開催される半田山車祭りのメイン会場ともなる地区である。
 【旧中笠家住宅】
 旧中笠家住宅は、明治44年当時の中笠軒店社長中笠半六が建てた洋風建築で、国の重要文化財に指定され、現在はTMOにより紅茶専門店として一般公開している。
 ・本計画に関連して、JR半田駅前においては、平成22年度より土地画整理事業(道路特会)により、都市基盤整備ならびに居住環境の改善を図る計画である。
 ・平成16年6月、まちづくり担当推進監を中心とした6課で都市再生整備計画に関する目標設定や、事業の選定作業を行いとりまとめをした。
 ・平成17年1月に運河周辺地区において、景観重点地区に指定し資源、景観の保全に努めていく。

課題
 ・都市機能面及び、景観上からも、半田市の玄関口として観光客を迎えるための広域的交流拠点の整備が必要である。
 ・運河、蔵、酢の里、酒の文化館、赤レンガ建物といった十分な観光資源を有しているながら、それがまちの賑わい創出に生かされていない。
 ・本市そのものが観光都市ではなかったため、市外から訪れる人を歓迎する意識が弱く、そういった視点でのまちづくりがなされていない。
 ・中部国際空港の開港により知多半島に新たに1200万人ともいわれる人の流れが生じる。同じく愛知万博の開催によりさらに人の流れが加速することが考えられるためこのチャンスを活かし観光客の増加につなげていく必要がある。

将来ビジョン(中長期)
 <半田市総合計画>
 半田市の中心市街地の核である名鉄知多半田駅周辺の土地画整理事業及び再開発事業を推進して高度な都市機能を誘導し、広域的な交流拠点を形成する。また、運河、蔵及び既存の民間観光施設と併せ、観光の中心地としての景観整備を図り、港から運河に至る水辺空間と蔵のある風景、赤レンガ建造物など、歴史文化を活かした魅力ある交流を演出する舞台とする。
 <半田市都市計画マスタープラン>
 名鉄知多半田駅及びJR半田駅周辺については、本市の玄関口としてふさわしい景観形成を図り、半田運河周辺区域を本市の歴史と伝統のシンボルゾーンとして位置づける。
 <半田市観光振興計画>
 半田運河と蔵のまちを活用した修景整備を行うことで、半田市を象徴するシンボルゾーンを形成する。

目標を定量化する指標

| 指 標 | 単 位 | 定 義 | 目標と指標及び目標値の関連性 | 従前値 | 基準年度 | 目標値 | 目標年度 |
|----------------|-----|----------------------------|---|---------|------|---------|------|
| | | | | | | | |
| 来街者数 | 人/日 | 鉄道の乗降客数(名鉄知多半田駅、住吉駅・JR半田駅) | 現在の利用客のほとんどが通勤通学客であるため、まちの回遊性、滞留性を増すことで鉄道を利用した観光客を増加させる。 | 18,733 | H15 | 20,000 | H21 |
| 商業店舗数 | 店舗 | 地区内にある中心市街地区域内における店舗数 | 地区内にある中心市街地区域内における店舗数の減少を抑制する。 <平成11年から平成16年にかけて5年間で59件(17%)減少> | 235 | H16 | 235 | H21 |
| 酢の里・酒の文化館の来場者数 | 人/年 | 年間来場者数 | 他の観光施設との連携を定着させることにより来場者の減少を抑制する <平成8年から平成13年にかけて27,149人(18.6%)減少> | 118,000 | H13 | 118,000 | H21 |
| 住民満足度アンケート調査 | % | 住みやすさの満足度アンケート | にぎわいを取り戻し、まちの活性化を図ることにより住みやすさの満足度を増進させる。 | 66.4 | H9 | 70.0 | H21 |